

はせさんず

2020 臨時号 NO.90

ニュース

2020年6月26日(金)発行
 NPO法人たすけあい大田はせさんず
 理事長 棧敷 洋子
 〒146-0082 東京都大田区池上4-28-3
 はせさんず(会員制) 03-5747-2610
 ヘルパーステーション 03-5747-2816
 ケアサポート 03-5747-2800
 デイホーム 03-5747-2660
 元気かい 03-5747-2605
 FAX専用 03-5747-2620

はせさんずは会員制のたすけあいの会です。入会随時受付!

NPOの非営利活動にご寄附ご支援をお願いします

「はせさんずアンケート」の結果から

2000年に介護保険制度が始まって20年、介護職の不足や財源不足など制度の課題が出てくるなかで、はせさんずの活動も変革の時期を迎えています。

そこで、会員やヘルパー・介護保険サービス利用者など皆さんの意見を聞き、これからはせさんずの事業運営に反映させていきたいと考え、今年3月、郵送でアンケートを実施しました。

■アンケートの対象者

「活動者」活動会員および訪問介護ヘルパー。活動会員のなかには訪問介護ヘルパーをしている人も多くいます。

「利用者」利用会員および介護保険利用者。60歳以下はほとんど障害福祉サービスの利用者です。

「賛助会員」会員制サービスに加入し、介護保険を利用する人もいます。また、介護保険のみを利用し、会員制サービスは利用しない人もいます。

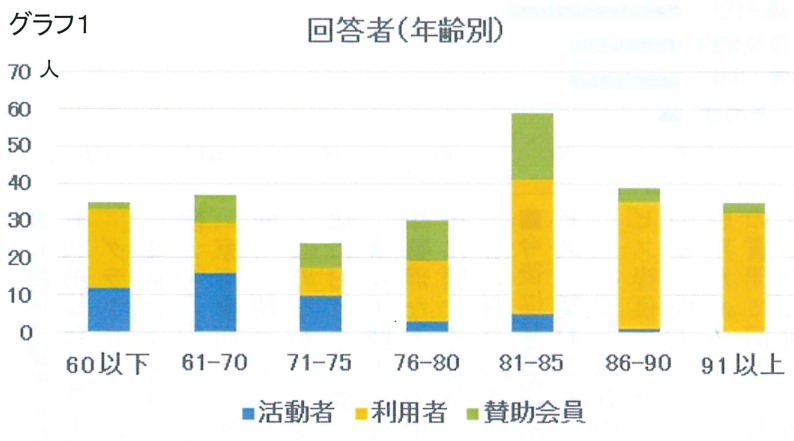
「賛助会員」会員制サービスも介護保険サービスも利用していませんが、はせさんずの活動に賛同して、賛助する会員です。元気がいいに参加している人もいます。

年齢別の分布をみると、活動者の人数に比べて利用者が多く、かつ高齢であり、介護の現状をよく表しています。

回収率は活動者が約52%、利用者が約48%、賛助会員が約50%で、全体では約49%でした。

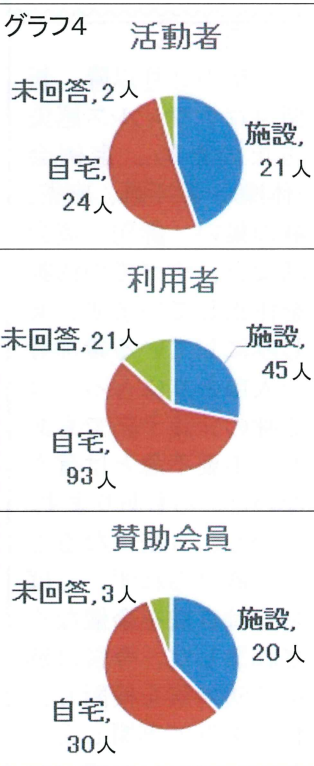
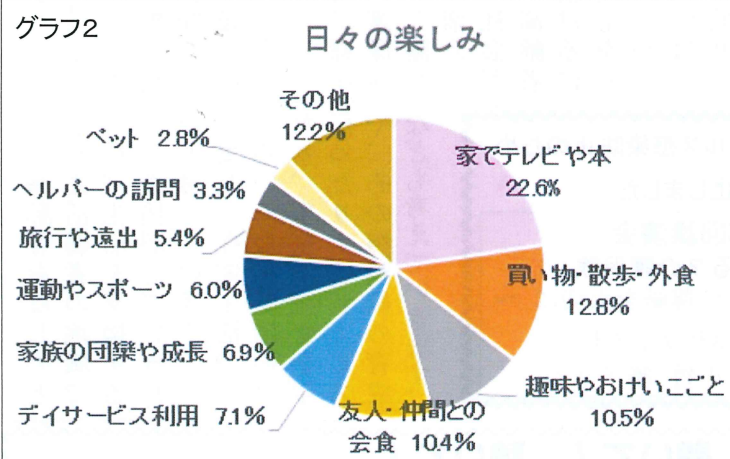
■日々の楽しみ

日々の生活で楽しみにしていることは、「家でテレビをいったり本を読んだりする」が一位に上がりましたが、「買い物・散歩・外食」の趣味や「友人・仲間との会食やおしゃべり」など、皆さんが盛んに家の外でも交流をしていることがわかります(グラフ2)。



区分	男	女	合計	発送数	回収率
活動者	10	37	47	90	52.2%
利用者	38	121	159	329	48.3%
賛助会員	5	48	53	105	50.5%
合計	53	206	259	524	49.4%

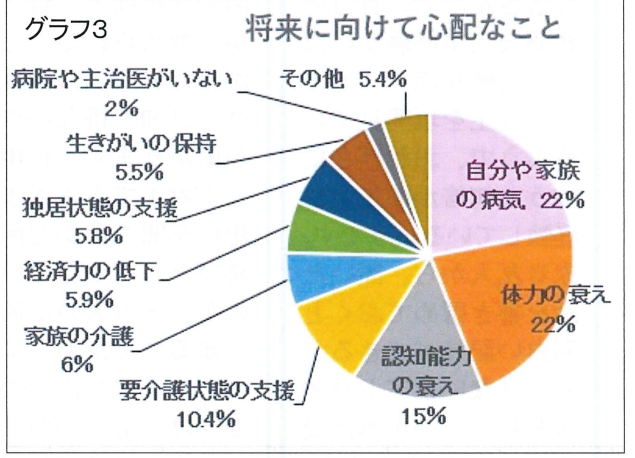
59人から回答がありました。年齢別の人数をグラフ1に、対象者別の人数を表1に示します。



「施設か自宅か」将来介護状態が重くなった場合に、あなたは施設介護を望みますか? それとも在宅で過ごしたいですか?の質問には「自宅にいたい」を選択する人が多かったとはいえない、かなりの人が「施設へは行きたい」を選択しました。最近では、施設介護が認知されてきたのでしょうか。

また、活動者と賛助会員では施設を選択する人がやや多く、すでに介護を受けている利用者では施設を選択する人が少ないという結果も見えます。

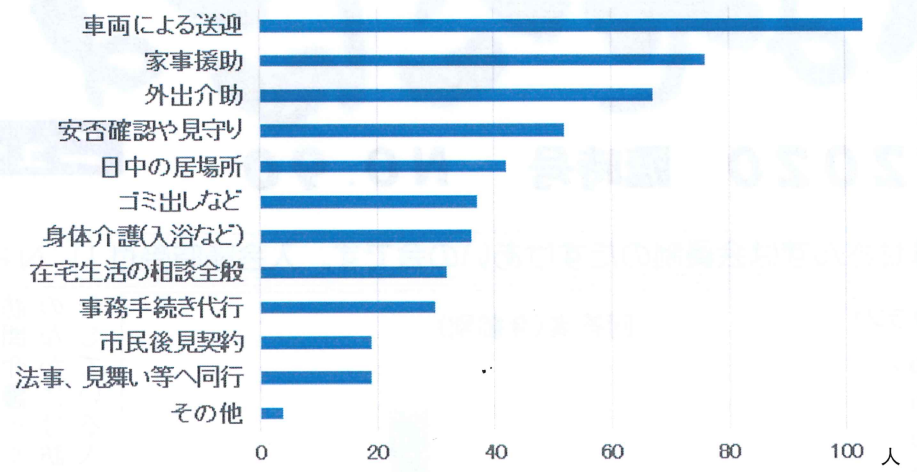
そのなかでも「自費サービスは高額のため利用できない」「ヘルパー不足といわれてサービスが受けられない」「家族同居のため介護保険サービスが受けられない」などが目立ちました。



「介護保険で困っているか」介護保険サービスを利用、または利用しようとして困っていることがありませんか?の質問には、回答者の73%以上が未回答となりました。活動者や賛助会員には回答しにくい質問だったようです。

また、回答者の立場の違いが出たようです(グラフ4)。

グラフ5 介護保険認定がなくても利用したいサービス



■介護保険認定がなくても利用したいサービス
 グラフ5のとおり、「車両による送迎・通院介助」の支持は多く、「家事援助」「外出介助」と続きました。

このなかで「在宅生活における相談全般」「事務手続き代行や書類整理など」の相談支援に関する要望があることが目立ちます。

■今後はせさんずのサービスに望むこと
 「夜間・休日のサービス提供」「サービスの質の向上」などを望む声がある一方で、この質問に関する62%近くの未回答がありました。特に活動者や賛助会員は「現在では介護の必要がないので」と

のコメントも多く、回答できなかった人たちのニーズを掘り起こすために、質問を工夫することが今後への反省点となりました。

■まとめ
 介護保険制度が縮小されるなか、介護保険認定がなくても介護や支援を望む声は増えています。また、社会が複雑になって、高齢者が在宅生活を続けるにもさまざまな対応をしなければなりません。今後はせさんずは、介護保険など公的サービスの充実を心がけるとともに、公的サービスとボランティアを併用して利用できる柔軟な対応

で、高齢者をはじめとする生活弱者の地域での在宅生活を支援することを検討していきたいです。また、在宅生活でのいろいろな相談にのったり、事務手続きを手伝ったりするサービスや、その相談員の育成なども考えていきます。

新型コロナウイルス感染防止のため
 中止しました
 第23回講演会
 「どうなる？介護保険」
 ～一人ひとりの尊厳を大切に～
 ・日時：3月7日(土)
 ・講師：小竹 雅子さん

ご利用者の声
 齋藤弘晶様(利用者)
 齋藤津妙様(母)

編集部：毎日どのようにしていますか。
 弘晶：今は下丸子にある作業所に行っています。ここはひとりで行ける。帰ったら家でゲーム(任天堂スイッチ)



編集部：行政への要望は？
 津妙：幼稚園の頃は下の子どもいたのでもう少し手伝ってくれる人がいれればと思います。最近手がかかられるのでそれほど不足はないですね。

編集部：はせさんずは？
 津妙：はせさんずのサー

ビスには満足してはいますが、特に、夏休みにプールに連れて行ってもらうとうれしい。母親だと更衣室に行かないので困っていました。

編集部：生活で困ること
 津妙：髭剃りを痛がって嫌がるけどもう少し身だしなみをちゃんとしてほしい。

編集部：特技は？
 弘晶：移動支援サービスを利用してカラオケに行きます。

津妙：おかげで私も、知

らない曲を歌えるようになっていたりします。

弘晶：映画も行きたいよ。(ヘルパーと)車の映画「ワイルドスピード」を見に行った。自動車は大好き。津妙：自動車には詳しくて、たまに父親がドライブに連れていくと、遠くからでも車種を言い当てる。

編集部：特技ですか。
 弘晶：はい。

編集部：またヘルパーと一緒にカラオケや映画に出かけて楽しんでください。「聞き手 棧敷・榎

はせさんず各部門スタッフより 聞いて！ 聴いて！

会員制たすけあい活動
 移送活動の運転中は利用者の話を聞く機会が多く、趣味、グルメ、家族、楽しみ、苦労話、不満など多岐にわたりますが、人生経験豊かな皆さんの話。自分の貧弱な人生経験からはとても興味深く、その人の人生を垣間見るようで、おおげさと言うと何倍かの人生を経験しているようです。先日友人から、聞いた話を書き留めておくと面白い記録ができるかもしれないとアドバイスあり。いつか本になるかも！?(高木清彦)

ヘルパーステーション
 サービス提供責任者となり早5か月。利用者やヘルパーさんとも直接話をする機会が増えました。物事のとらえ方や人を見る力、生活の知恵など、皆さんから教えられることばかり。私の二つの目だけでは知り得ない世界が広がります。利用者と1対1でさまざまな想いを聞くなかで何を喜びとして生きているのか、その人の幸福観を知ることから、よりよいサービスにつなげていけるよう心がけています。(生田目綾子)

ケアサポート
 高齢の母を介護して、誕生日には感謝の気持ち綴った色紙を贈る息子さん。彼から日野原重明さんの「生き方上手」という本をもらいました。最初この本を通して彼が伝えたい思いがあるのか、私に対するアドバイスがあるのかと読んでみましたが、そんな先入観を持ったのが恥ずかしいほど。つまずいたとき、これから先の不安を感じるとき、どこからでも開いて読める、この本との出会いをくれた彼に感謝。(清水桂子)

デイホーム
 入職して1年。子どもの頃に家族でお会式にきた池上に勤めて、何か縁を感じています。デイホームでは日課に外出がありますが、公園など四季折々の花々や樹木を見る機会が多く、そこで利用者の皆さんと歩いたり会話をしながら流れる時間は穏やかで、私自身にも楽しいひとときです。休日のウォーキングや読書、食事など、まず心身ともに健康であるよう心がけ介護職として精進していきたいと思えます。(太田真美)

元気かい
 今年の2月以降、新型コロナウイルス感染防止のため、定例会(体操)、絵手紙、麻雀、歌の集い、俳句、英会話など、すべての活動を休止しています。楽しみにしている参加者一人ひとりにとっては心身の介護予防でもあり、不要不急とは言えないところもあります。しかし、3密になることは避けられず、しばらくは自粛を余儀なくされました。今後は感染予防対策を検討し、状況をみて再開しようと思えます。(佐藤 悟)